

産学連携実績紹介フォーム

1. 講座の計画から実施までの情報

教育機関名 (学校名・学部学科等)	横浜商科大学 商学部	実施時期	2014年度 前期
対象学年・学期・人数	2年～4年、前期、50人		
講座名	SE 講座(システム設計基礎)		
連携企業・団体	一般社団法人 神奈川県情報サービス産業協会		
支援・連携の類型	連携団体の作成テキストとハンドブックにより講座を実施(講師派遣型)		
講座の概要・特徴	<p>SEの仕事について講師の経験を踏まえて解説し、理系・文系さらには男女を問わず、IT業界を進路選択の一つとして視野に捉えて考察する場を提供する。</p> <p>講義は、協会で編纂した手引き書(SEハンドブック)を元に、担当講師が独自に作成した教材を使った授業でSEの仕事に理解を深め、さらに講師自身の経験に基づく業界の話を受講生に紹介することで、業界の現状を正しく伝える。</p>		
産学連携検討の背景	ITに関して、体系的な内容は講義で扱っているものの、現場の状況などについては学習する機会が少ないため、連携によって大きな効果が得られることが期待される。		
連携の狙い、目的・目標	IT 社会、情報サービス産業、SE について、現場で活躍されている企業の方から生の声・最新動向・経験談を聞くことで、学内講義だけでは得られない、より幅広い知識とスキルを身に付ける機会が得られる。		
連携にあたっての課題・懸念	特になし		
講座の位置づけ 既存講座との関係	学部専門科目として設置し、情報系に限らず幅広い学生の受講を期待する。		
履修前提条件	特になし		
授業準備と実施の体制	<p>講義資料は、各回講義担当の講師が準備したファイルを大学が事前に受け取り、大学が講義専用 Web ページにアップし、学生は当日 PC やスマートフォン等を利用して資料を閲覧しながら授業を受けることもできる。</p> <p>講義は、各回講義担当の講師が実施する。</p>		
成績評価の方法	各回の受講アンケートの内容、出席状況、期末レポートについてそれぞれ点数化し、合計点で評価する。		

講座の構成(シラバス)	単元と時間配分 (1コマ 90分で実施)	演習・実習	実施担当・役割分担
	01(ガイダンス) 90分		講師: 神情協の認定講師 補助: 商大担当教員・学生
	02(SEとは) 90分		講師: 神情協の認定講師 補助: 商大担当教員・学生
	03(SEのマネジメントスキル) 90分		講師: 神情協の認定講師 補助: 商大担当教員・学生
	04(情報システムの企画と提案) 90分		講師: 神情協の認定講師 補助: 商大担当教員・学生
	05(システム設計の概要) 90分		講師: 神情協の認定講師 補助: 商大担当教員・学生
	06(システムテストと運用テストの意義) 90分		講師: 神情協の認定講師 補助: 商大担当教員・学生
	07(情報サービス産業界の現状) 90分		講師: 神情協の認定講師 補助: 商大担当教員・学生
	08(データベースの知識) 90分		講師: 神情協の認定講師 補助: 商大担当教員・学生
	09(ネットワークの知識) 90分		講師: 神情協の認定講師 補助: 商大担当教員・学生
	10(情報セキュリティと個人情報保護) 90分		講師: 神情協の認定講師 補助: 商大担当教員・学生
	11(プロジェクトマネジメント) 90分		講師: 神情協の認定講師 補助: 商大担当教員・学生
	12(SEのベーススキルと関連知識) 90分		講師: 神情協の認定講師 補助: 商大担当教員・学生
	13(特別講義、システム化事例紹介) 90分		講師: 神情協の認定講師 補助: 商大担当教員・学生
	14(授業全般の総括とまとめ) 90分		講師: 神情協の認定講師 補助: 商大担当教員・学生

演習・実習の内容 必要なマシン環境等	必要機材: ・プロジェクタ、スクリーン ・プレゼンテーション用パソコン
-----------------------	---

2. 講座実施後の情報

受講者の声（受講目的、修得目標）	SEを目指している、SEに興味がある、広くITに興味がある、など
受講者の感想（本講座で得られたもの）	<p>（受講生から寄せられた感想をもとに抜粋・要約したものです。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SEに大切な事、情報を扱う者としてのスキル、お客様からの要望に答えそれを実現する能力、などが聞けて良かった。 ・3年生や2年生など本気でSEになりたいと思っている人や、少しでも興味や関心があるような人でもSEという仕事の中身を覗くことができるのが良かった。 ・プレゼン資料があまりにも多くわかりにくかった回もあった。 ・これからどう社会に貢献していくか、就職活動に不安を持っている生徒の質問にちゃんと答えてくれた。 ・就職活動中の人たちにとっては、先生方の僕達くらいの年齢だった時の体験談等を聞きたい人が多いと思うので、そのようなお話をもっと聞きたい。 ・SEとしての現場での経験のある講師の方々が、実際の体験などをリアルに話していて、とてもためになった。 ・SEになるためには、プログラミングの技術だけではなく、マーケティングなどの知識も必要だということを知ることができ、今後そういった講義を受け、知識を身につけていくという、一つの目標ができた。 ・同じSE講座でも人が違うので、それぞれの考え方や感性があり様々な角度からIT業界を知っていくことができた。 ・良い所だけではなく、失敗の体験談なども教えていただき、普通の会社説明会では聞けないような話も聞いた点も良かった。
先生の評価	<p>受講対象が2年生～4年生であり、SEを希望する学生とそうでない学生の両方がいるなど様々な受講生が含まれていたため、専門的な話については難解と感じる学生もいたようですが、業界について、就職活動についてなど、身近な体験談については一様に大きな興味を持っていたようでした。通常の講義では聞くことのできない、現場で活躍されている様々な先生方の生の声が聞ける、貴重な時間であったと思います。</p>
企業・団体による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・情報サービス産業に対する間違ったイメージや偏見を是正し、業界の姿を正しく伝える、という目的はかなり実現してきていると思われる。 ・本学では、2年生以上が履修対象となっているため、技術面の話や業界の話、更に就職活動の話まで、学年によって受けとり方にニュアンスの違いが生じるとと思われる。この点を今後どのように対応していくかが課題といえる。

今後の展望 (継続に向けた課題)	<p>講義 Web ページを設け、資料ファイルを事前に置いておき、当日はPC・スマートフォンで閲覧する(印刷したい学生は各自事前に印刷して持参する)かたちにすることで、時間配分のバランスを改善しています。また、受講アンケートについては、理解度を学生・教員ともに確認できる重要な資料として、採点対象の記入枠を少し大きくして頂き、記入する時間を授業時間内に 10～15 分程度確保して頂いています。</p> <p>今年度の講義で得られた効果と課題をもとに、次年度も引き続き、学生にとってどのような講義が望ましいのかといった視点から、より良い部分は積極的に盛り込み、問題点については継続的に改善に取り組みたいと思います。</p>
---------------------	---

3. 支援企業・団体からの情報(神情協記入事項)

提供教材・コンテンツ情報	講座名称 : 大学向けSE講座 講義形式 : SE講座講師が独自に作成した教材を元にPPTで講義を行う。		
提供元	神奈川県情報サービス産業協会 (会員企業の認定講師)	費用 (標準価格)	①講座費用(別途調整) ②テキスト有償(SEハンドブック)
支援の目的・目標	SEの業務について講師の経験を踏まえて解説し、仕事内容に理解を深め、さらに講師自身の経験に基づく業界の話により、業界の現状と業界が求める人物像を受講生に伝える。 理系・文系さらには男女を問わず、IT業界を進路選択の一つとして考察いただき、受講生の多くがIT業界に進路を選択をする事を目標とする。		
具体的な支援内容または提供教材の内容	講義は、協会で編纂した手引き書(SEハンドブック)を元に、担当講師が独自に作成した教材を使用し講義を行う。 注記:SEハンドブックの詳細は別紙添付。		
講座実施における企業・団体の役割	下記の14回の講座を団体が提供し、各回の講師は会員企業より認定されたSE講座講師が実施する。 講義 : 01(ガイダンス) 講義 : 02(SEとは) 講義 : 03(SEのマネジメントスキル) 講義 : 04(情報システムの企画と提案) 講義 : 05(システム設計の概要) 講義 : 06(システムテストと運用テストの意義) 講義 : 07(情報サービス産業界の現状) 講義 : 08(データベースの知識) 講義 : 09(ネットワークの知識) 講義 : 10(情報セキュリティと個人情報保護) 講義 : 11(プロジェクトマネジメント) 講義 : 12(SEのベーススキルと関連知識) 講義 : 13(特別講義、システム化事例紹介) 講義 : 14(授業全般の総括とまとめ)		
企業・団体からの推薦コメント	神情協会員企業の中からSE講座講師審査会で資格認定された講師が各回の講義を行う。 講義は、毎回違う講師(企業)がご自身の経験や実績を踏まえて講義を行うため13名(複数企業)の講師の講義を受ける事となる。 講師企業には、メーカー系、ユーザー系、独立系等の企業があり、企業規模も大企業から、中小企業さらにはベンチャー企業まで幅広い講師(企業)が担当することとなり、受講生にIT業界の多くの可能性を紹介する。 この授業には利用者側の教員も参加頂き、教育に積極的に関与して頂く。		